



1月23日（火）午後、「やらまいか講演会」を開催しました。前半は浜松市長の中野祐介さんによるミニ講演会、後半は市長に加え、本校卒業生の市議会議員小野田康弘さんと代表生徒6名によるトークセッションを行いました。全校生徒・保護者・地域の方が見守る中、自分の言葉で質問し、自分なりの思いを真剣に伝えようとする代表生徒たち…大変立派で、誇らしく思いました。トークセッションという新しい試みでしたが、市長・市議の温かい人柄やユーモアを交えた語りで会場に一体感が生まれ、地元の可美・浜松を大事にする機運が高まったと感じました。また、CS委員や地域の方からも温かい励ましのメッセージいただきました。心から感謝申し上げます。（北村健治）

一緒に浜松盛り上げまいか



生徒とのトークセッションを行う中野市長（左から2人目）＝浜松市立可美中

市長可美中で講話

浜松市立可美中の学校運営協議会は23日、中野祐介市長を招いた「やらまいか講演会」を中央区の同校で開いた。中野市長が全校生徒約380人や地域住民らを前に講話とトークセッションを行い、ユーモアを交えながら市長職のやりがいや市政運営の意気込みを語るとともに、「ふるさと・浜松、可美のまちづくりに関心を持ち、一緒に盛り上げてほしい」と生徒にメッセージを送った。

まちづくりテーマ 討論会も

「20年後の可美・浜松をさらに住みよい街にしよう」をテーマにしたトークセッションでは代表生徒6人から質問を受けた。「『持続可能で創造性あふれるまち』をどうつくるのか」との質問に対しては「急速に

中野市長が中学生を対象に講演するのは昨年5月の就任以来初めて。舞台上に立った中野市長は陸上部に所属した中学生当時を振り返りながら、「将来は『人の役に立つ仕事に就きたい』と漠然と考えていた」と紹介。総務省時代に北海道など5カ所の地方自治体に勤務したことで「浜松の素晴らしいところ、どこにも負けない力に気づいた」と語り「浜松には魅力的な企業、豊かな自然、都市機能、ポテンシャルがある。高校卒業後の進学で浜松から出て、いずれ戻って来て住んでほしい」と期待を寄せた。

進む人口減の流れを食い止める、多様性によってまちと暮らしの魅力を高める取り組みを進めていく」と説明。市長の仕事については「これまでの経験の集大成（総務省時代に）蓄積してきたものを成果として生かせる仕事なのでやりがいを感じている」と伝えた。

（浜松総局・宮崎浩一）

↑1月24日の静岡新聞より

生徒の感想①

- ・市長・市議会議員のお話が聞けてすごくよい体験ができたと思いました。市長さんが「東京より浜松の方が未来がある」と言ってくれてすごく嬉しかったです。未来があると言ってくれたこの街を、市長さんが「未来は若者がつくっていく」と言ったように、率先して街に貢献していきたいです。（1年男子生徒）
- ・市長さんのことはあまり知りませんでした。なので、今回の講演をお聞きし、とても知的な方で、ユーモアあふれるよい方だと知りました。私も浜松の発展に協力したいと思っているので、市長さんもお体に気を付けてお仕事がんばってください。（1年女子生徒）

生徒の感想②

- ・「持続可能な社会」と聞くとSDGsが思い浮かびます。「持続可能な社会」を創り上げていくのは、100人でも足りないと思います。日本という国に住んでいる人、全員が行わなければいけないと思います。全員が取り組むことで創り上げられていくと思います。(1年男子生徒)
- ・聞いていて楽しかったです。私は政治に対してどこか「大変そう」「難しそう」などとマイナスな気持ちを抱いていましたが、中野市長が「身近に感じてほしい」と言われていたのを聞いて、政治について調べるというのも楽しそうだなと思いました。(1年女子生徒)
- ・2045年には浜松の人口が約10万人減少するという話を聴いて、驚くと同時に現在の浜松がどれほど危うい状況なのかを知れました。私も浜松の一員として、将来は浜松のためになるようなことをしたいです。(1年男子生徒)
- ・やらまいか講演会を終えて、自分の考え方が変わりました。初めは「政治は難しそう」「堅苦しそう」と思っていたのですが、選挙の投票は18歳からできて、「未来を創るのは『よそ者』『ばか者』そして『若者』」という言葉を知り、「政治というものは身近にあるのだろうか」と感じました。中学時代の話や浜松の魅力についても知ることができ、楽しめました。(1年女子生徒)
- ・今までは東京に行って大きな会社に就職したいと考えていましたが、中野市長のお話を聴いて、「浜松で一生過ごすのも良いな」と思いました。自分は何か新しいものを将来つくりたいので、ブラックホールのように地方の様々なものを吸い込んでいく都会よりも、0から新しいものを創れる地方(浜松)で働きたいなという気持ちが強くなりました。(2年男子生徒)
- ・市長さんたちの話…「浜松は日本一生活しやすい街。移住者にも選ばれる街。」ということを知り、「私が住んでいる街はすごくいい街なんだ」ということを理解しました。私はこの街のために少しでもできることをしたい。浜松を持続可能な街にするため、私たちでもできるかぎりの地域を盛り上げる活動をしたいなと思いました。(2年女子生徒)
- ・私の政治のイメージはやっぱり堅いイメージですが、今日の話を知り、「身近なところにあるもの、素晴らしいもの」なんだと思いました。そして、どんな経験も将来につながるとても大切なことなんだと思いました。私はちょっとした夢を持っていて、市長ではなく総理大臣になって浜松だけじゃなくて日本をよくしたいです。(2年女子生徒)
- ・将来の生き方や今の浜松についていろんなことを知れて、やっぱり浜松に生まれてよかったと思えることができました。浜松は全然いいところがないと思えていたのですが、よい場所がなくても、健康な人が多かったり、人口が多かったりなど、いいところがたくさんあるということに気づきました。今回を機に自分の将来についてもっと考えようと思います。(2年女子生徒)



生徒の感想③

・印象に残ったことは「政治家の仕事は市民のお手伝い」ということです。「お手伝い」という言葉だけを聞くと難しいイメージはないのですが、「お手伝い」をこなすためにたくさんのことをやってくれていると思うと限られた人にしかできない仕事だと感じました。中野市長や小野田市議はそんな仕事を日々市民のために頑張ってくれているので素晴らしいと思いました。(3年男子生徒)



- ・浜松では過疎化が進んでいて特に天竜区の人口がとても少なくなっていると感じます。だから、中野市長には、天竜区にも人が集まり、中心部と変わらないような街づくりをしてほしいです。天竜区にも浜松の中心部だけでは伝わらない魅力があると思うので、ぜひ天竜区も発展させていってください。これからも浜松市をよろしくお願いします。(3年男子生徒)
- ・市長のお話を生で聴いて、より政治について考えることができました。政治と聞くと内閣や国会などの中心部を想像してしまいましたが、まずは自分の地元について関心をもっていくべきだと思いました。浜松で生まれた若者は多いですが、大学進学と同時に外へ出て行ってしまいます。それを留めるには、浜松にも多くの大学、興味の持てる就職場所がほしいと思いました。今回は貴重な経験をありがとうございました。(3年女子生徒)
- ・「政治」を少し身近に感じました。市長さんの話の途中に「多様性について」というものがありました。私はこの「多様性」について深く考えることができました。これからは、自分の中の考えにとらわれず、周りの人の新たな意見もよく聞いてみようと思います。そして、「多様性」を生かしてよりよい浜松をつくるのと同じように、よりよい私の生き方を探してみようと思いました。(3年女子生徒)

保護者・地域の方・学校関係者の感想

- ・中学生の質問内容が素晴らしいものでした。生徒もいい経験ができたと思います。(市長・市議は)大変お忙しいとは思いますが、このような講演会を各地域の中学校にもつなげてもらえたら嬉しいです。ありがとうございました。(保護者)
- ・市民として、また、有権者として、このような講演を聴ける機会は何もないので、とても貴重な時間で、かつ、あっという間に終わったようにも思い、名残惜しくも感じたくらいです。貴重な講演…本当にありがとうございました。(地域の方)
- ・トークセッションがとてもおもしろかったです。講義形式の第1部よりもソファに座って対話形式で行った第2部の方が市長さんの考えや思いが垣間見えた感じがします。また、学校行事としても、市長さんや市議会議員さんと対等に話をする先輩の姿を後輩に見せる場というのは、大きな意味があると思います。「あの先輩スゴイ!かっこいい。あのようになりたい。」と思った後輩が伝統を守り、新しい可美中を創っていくのだと感じました。(他校の教員)